

乳児に対する気道異物の除去

○乳児の場合「予防策」が最も重要であり、気道異物となりやすいものを乳児の手の届くところに置かない。

○苦しそうで顔色が悪く、泣き声もないときは、「気道異物による窒息」と判断します。

1 反応（意識）がある場合

(1) 異物除去の方法（乳児の場合）

①胸部突き上げ法 ※乳児には腹部突き上げ法はしない。

○乳児を仰向けにして、片方の腕に背中を乗せ、手のひら全体で後頭部を持ち、上半身がやや低くなるような姿勢にします。

○もう一方の手の指2本で、乳児の胸骨圧迫と同じ要領で、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とする胸骨の下半分を4～5回圧迫します。

②背部叩打法

○なるべく低い姿勢をとります。

○乳児をうつぶせにし、片手で胸部と下顎を支えて、顎を少し突き出し、上半身がやや低くなるような姿勢にします。

※乳児の片足を脇に挟み、落下防止に注意する。

○肩甲骨と肩甲骨の間を手掌基部（手の付け根）で4～5回迅速に叩きます。



乳児への胸部突き上げ法



乳児の胸骨圧迫位置



乳児への背部叩打法

ポイント

- どちらか一方を数回行っても、効果がない場合は、もう一方を試みます。
- 異物が取れるか、反応がなくなるまで2つの方法を数回繰り返して続けます。

2 傷病者に反応（意識）がない場合

○反応がない場合、あるいは最初は反応があり、応急手当を行っている途中にぐったりして反応がなくなった場合には、直ちに乳児の「心肺蘇生法」を開始します。

○心肺蘇生中に異物が見えた場合には取り除きます。

○異物が見えない場合は、やみくもに口の中を探ってはいけません。

また、異物を探すため胸骨圧迫を長く中断してはいけません。



乳児への胸骨圧迫